

平成29年度こども霞が関見学デー
特定非営利活動法人全国検定振興機構加盟団体による
「検定試験体験プログラム」報告書



目 次

1. 検定試験体験プログラム実施概要	P 3
2. 運営組織	P 4
3. 出展団体企画内容	P 5
4. 会場レイアウト図	P 6
5. 参加者アンケート結果	P 7
6. まとめ	P 12

参 考

平成29年度「こども霞が関見学デー」について

「こども霞が関見学デー」は、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子の触れ合いを深め、子供たちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的とした取組です。今年は、8月2日（水曜日）、3日（木曜日）に、25府省庁等が業務説明や職場見学等を実施します。

- ・対象：小・中学生・幼児等（原則として保護者同伴）
- ・期間：平成29年8月2日（水曜日）、3日（木曜日）
- ・内容：職場見学のほか、各府省庁等の特色を生かし、子供たちを対象に広く社会を知る様々なプログラムを設け、一斉に「こども霞が関見学デー」として実施します。

当日は、子供たちの興味に合わせて霞が関を自由に歩くことができるよう、参加者に各府省庁等のプログラムと地図が入った「霞が関こども旅券」（パスポート）を配付します。

<参加府省庁等>

内閣官房、内閣府、宮内庁、公正取引委員会、警察庁、個人情報保護委員会、金融庁、消費者庁、復興庁、総務省、法務省、外務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、特許庁、国土交通省、気象庁、環境省、防衛省、会計検査院、国立国会図書館

文部科学省HPより http://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/kengaku/

1. 検定試験体験プログラム実施概要

- 日 時：2017年8月2日（水）・8月3日（木）10時～16時
- 場 所：文部科学省東館3F 1特別会議室
- 目 的：

検定試験の社会的活用促進のため、広く一般来場者に検定試験について知ってもらい、関心を持ってもらう。

将来的に、検定フェアのようなイベントに発展させることができるように、全国検定振興機構とその加盟団体との連携を強め、運営ノウハウを蓄積していく。
- 内 容：

来場する親子に民間検定試験について知ってもらうため、検定試験の体験や取り組みの紹介をする。

体験をすると同じ会場に設営された駄菓子屋でお菓子やおもちゃと交換できるエコマネーがもらえる「だがしや楽校」を実施し、検定団体と参加者の関わりを深める。
- 体験対象者：来場者誰でも可能
- 運営組織
 - 主 管 文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課
 - 主催団体 特定非営利活動法人 全国検定振興機構
 - 協力団体 学校法人 香川栄養学園
 - 公益社団法人 色彩検定協会
 - 特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー
 - 一般財団法人 中央工学校生涯学習センター
 - 公益財団法人 日本編物検定協会
 - 公益財団法人 日本英語検定協会
 - 特定非営利活動法人 日本語検定委員会
 - 公益財団法人 日本数学検定協会
 - 特定非営利活動法人 教育支援協会南関東
- 参加人数と体験回数（推定）

検定試験体験ブース参加者	5,466人	2日間延べ人数	
			※初日のエコマネー配布枚数より推定
参加した子どもの人数	819名	2日間	※アンケート結果より
子供一人の体験回数	6.6回程度		

2. 運営組織

総合責任者	吉田 博彦	特定非営利活動法人全国検定振興機構 理事長
統括責任者	鈴木 菜津美	特定非営利活動法人全国検定振興機構 事業局長
運営責任者	田中 靖子	特定非営利活動法人全国検定振興機構 事務局長
運営補佐	渡辺 賢治	特定非営利活動法人全国検定振興機構 事務局
運営補佐（誘導）	今井 和愛	特定非営利活動法人全国検定振興機構 事務局
運営補佐（誘導）	小山 奈津子	特定非営利活動法人全国検定振興機構 事務局
ブース責任者	佐々木 浩二	学校法人 香川栄養学園
ブース責任者	山中 雄市	公益社団法人 色彩検定協会
ブース責任者	下矢 友香	特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー (8月3日のみ参加)
ブース責任者	佐藤 浩二	一般財団法人 中央工学校生涯学習センター
ブース責任者	有泉 佳子	公益財団法人 日本編物検定協会
ブース責任者	板津 敏	公益財団法人 日本英語検定協会
ブース責任者	中鉢 浩	特定非営利活動法人 日本語検定委員会
ブース責任者	登石 明紀	公益財団法人 日本数学検定協会
だがしや楽校運営責任者	中原 ゆみ	特定非営利活動法人教育支援協会南関東

3. 出店団体企画内容

	団体名	出店内容
1	学校法人 香川栄養学園	①料検5級にチャレンジ（模擬問題） ②キャラクターの塗り絵にチャレンジ（幼児対応） 【展示・配布】パネル・ポスター展示、資料配布
2	公益社団法人 色彩検定協会	①ペーパークロマトグラフィーアート ②黒く見えるリンゴ！？ 【展示・配布】テキスト・過去問題集・試験問題・検定ガイド 色彩検定紹介ムービー放映
3	特定非営利活動法人 世界遺産アカデミー	①世界遺産クイズ ②みんなの行きたい世界遺産アンケート ③世界遺産の前に記念写真を撮ろう！
4	一般財団法人 中央工学校生涯学習センター	①トレース体験 マナビィをトレースしよう 【展示】トレース技能本試験の実物
5	公益財団法人 日本編物検定協会	①ブレスレットを編む ②羊の帽子をかぶって写真を撮ろう 【展示・配布】パンフレット（やってみよう！あみものけんてい）・広報パネル
6	公益財団法人 日本英語検定協会	①「実用英語技能検定」（抜粋版）にチャレンジ！ ②「英検Jr.」にチャレンジ！ 【展示・配布】英検の全級（1級～5級）の問題冊子・検定案内チラシ・各種パンフレット
7	特定非営利活動法人 日本語検定委員会	①日本語検定ミニテスト実施 【展示】日本語検定概要パネル/日本語検定問題パネル/日本語検定過去問題/日本語検定テキスト 【配付】日本語検定パンフレット/日本語検定リーフレット/日本語大賞チラシ
8	公益財団法人 日本数学検定協会	①「算数検定にチャレンジ」満点合格者には「体験学習証」を授与 ②「かず・かたち検定」の模擬検定（幼児向け） 【配布】数検の過去問・チラシ・ノベルティの配布
9	特定非営利活動法人 教育支援協会南関東	①駄菓子屋の出店 全体のだがしや楽校の運営

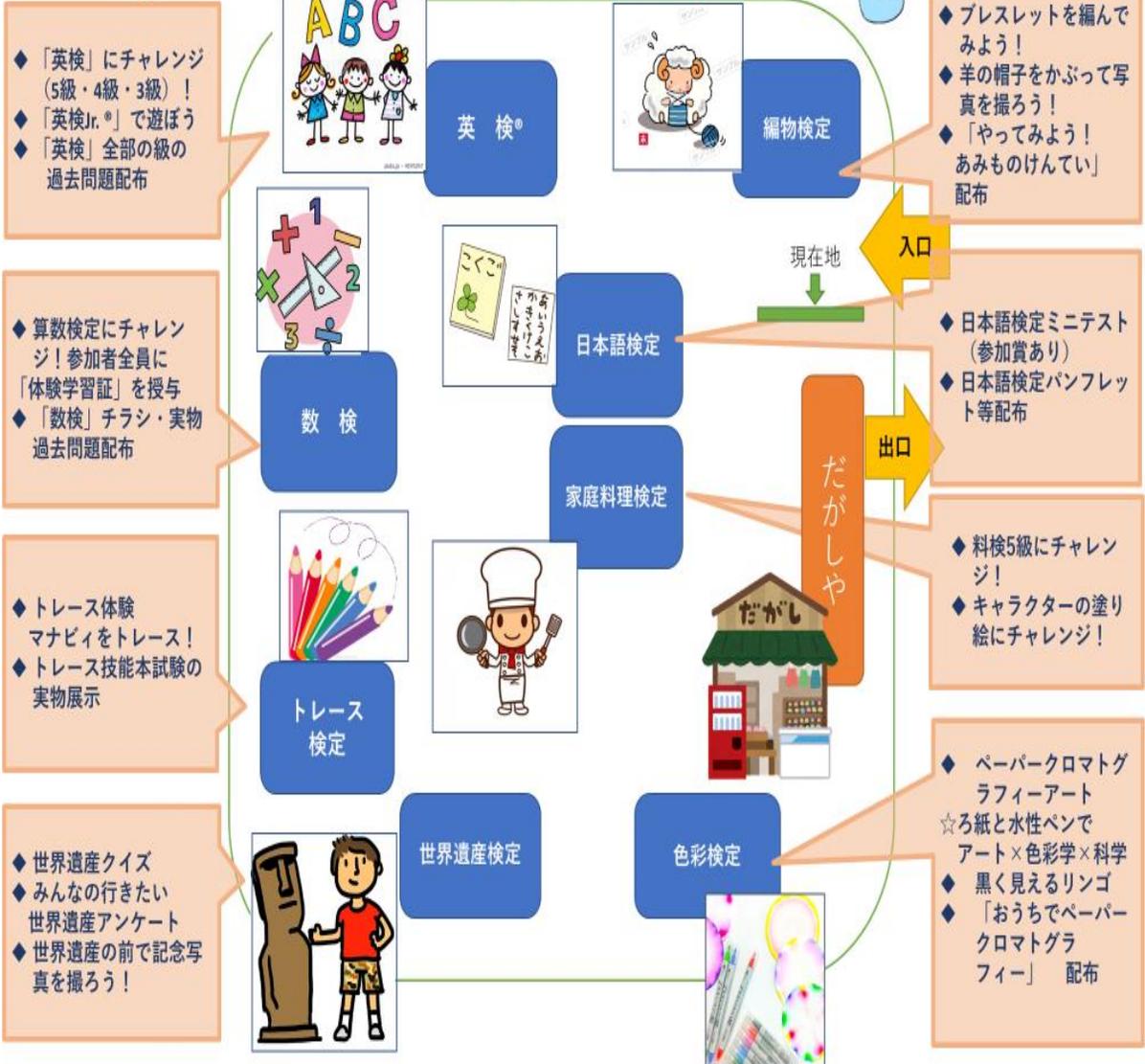
4. 会場レイアウト図



検定試験体験プログラム

～いろんな検定を体験して
エコマネーをゲットしよう！

だかしやさんで
お買い物だぁ！！

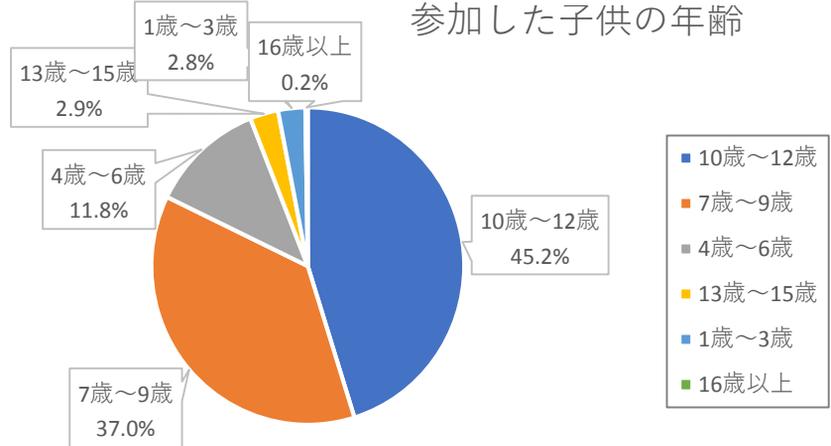


5. 参加者アンケート結果

対 象：来場した引率の大人の方々
 回収枚数：553枚（8月2日 278枚、 8月3日 275枚）

参加した子供の年齢を聞いたところ、総数は819名いて、**7歳～12歳の小学生の年代が80%以上**だが、13歳以上については、3%と少ない。一方で、6歳以下の小学生以下は15%いた。

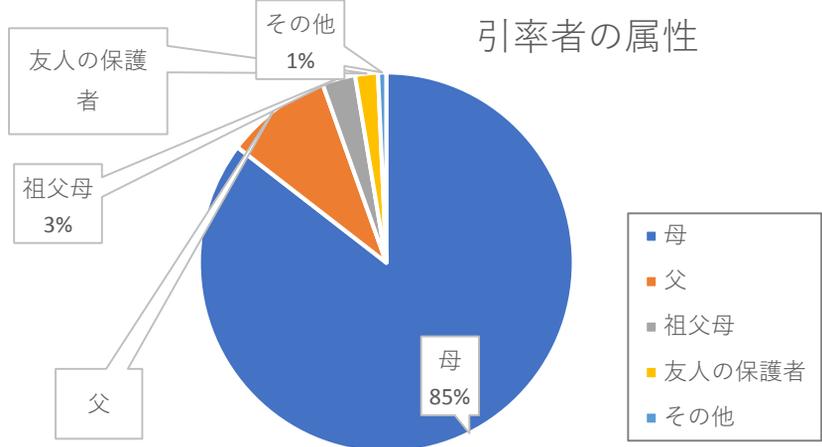
注：割合は子供の総数より算出
 参加した子供の年齢



	1歳～3歳	4歳～6歳	7歳～9歳	10歳～12歳	13歳～15歳	16歳以上	合計
人数	23	97	303	370	24	2	819
割合	2.8%	11.8%	37.0%	45.2%	2.9%	0.2%	100%

引率者は「母」が一番多くて85%、「父」は9%だった。「祖父母」や「友人の保護者」はそれぞれ3%と2%と少数だった。

引率者の属性



	母	父	祖父母	友人の保護者	その他	合計
人数	479	51	16	11	4	561
割合	85.4%	9.1%	2.9%	2.0%	0.7%	100%

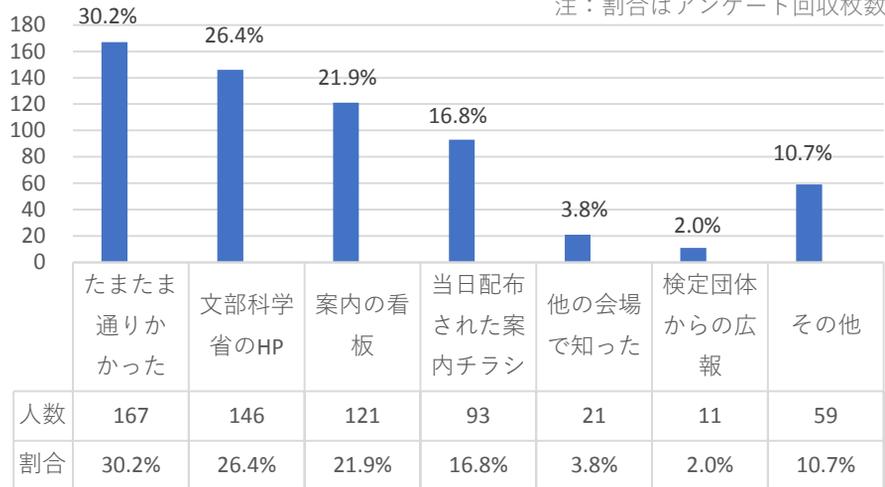
5. 参加者アンケート結果

「このプログラムを何で知ったのか」という問いには、「たまたま通りかかった」が30%「文部科学省のHP」が26%「案内の看板」が22%と続く。「検定団体からの広報」については2%だった。その他には「インターネット」「昨年も参加して」「知人の紹介」などがあつた。

1. このプログラムを何で知りましたか？

(複数回答有)

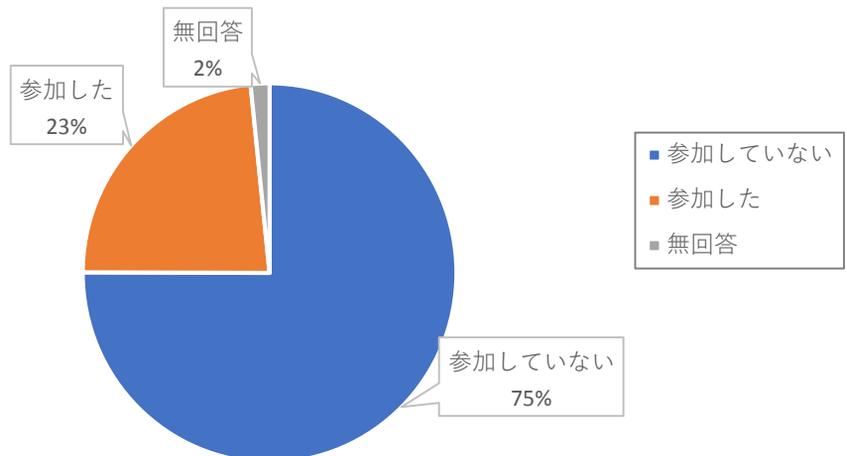
注：割合はアンケート回収枚数より算出



昨年も参加したリピーターは23%だった。

アンケートの感想の中にも「昨年来て楽しかったので、今年も参加した」という意見もあった。

2. 昨年も参加したか？

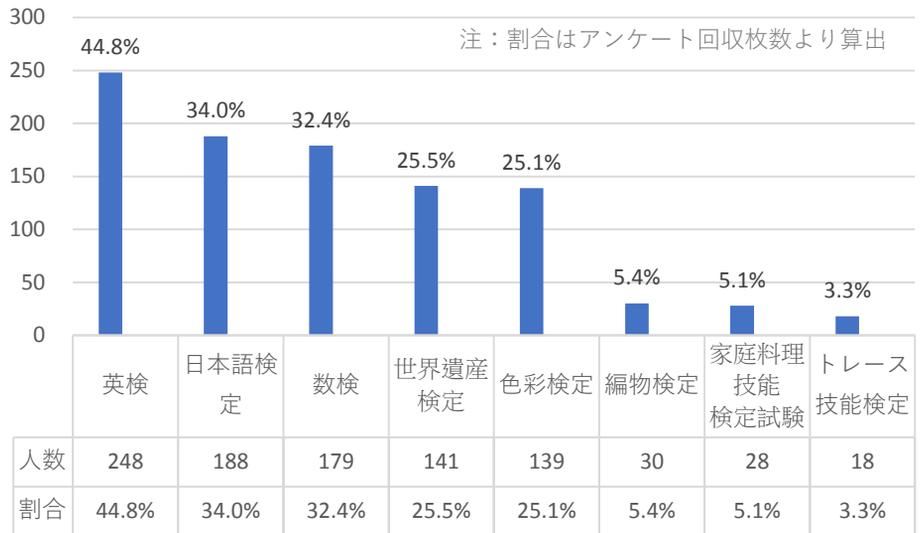


	8月2日 (水)		8月3日 (木)		合計		
	参加した	参加していない	参加した	参加していない	参加した	参加していない	無回答
回答数	59	214	70	201	129	415	9
割合	21.2%	77.0%	25.5%	73.1%	23.3%	75.0%	1.7%

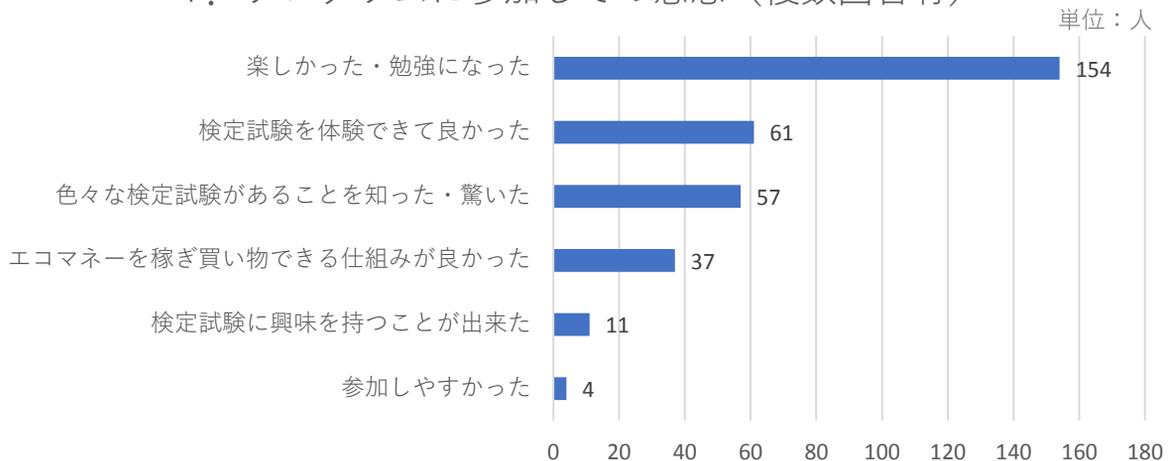
5. 参加者アンケート結果

3. 知っていた検定試験（複数回答有）

「ご存知だった検定試験は」という問いに対しては、「英検」が一番多くて44.8%。以下「日本語検定」「数検」「色彩検定」「世界遺産」「色彩検定」と続く。いろいろな検定があることを周知する機会になった。



4. プログラムに参加しての感想（複数回答有）



その他の意見

霞が関見学デーの全てのプログラムの中で一番楽しい。（2）

2歳でも参加できるものもあり、おもしろかった。

検定が身近に感じた。子供もやってみると意外にできるとわかったようだ。

普段やったことのない検定を体験でき、子供が興味を持ち、検定を受けたいと言った。

勉強嫌いな子でも体験できるもの、チャレンジできるものがあればいい。

プログラムについての感想は「楽しく学べた」という感想が一番多く、「検定試験を体験できて良かった」「いろいろな検定試験があることが分かった」が多かった。また、「エコマネーを利用しただがしや楽校の方法がよかった」という意見も多かった。

5. 参加者アンケート結果

5. お気づきになった改善点（自由記述）

ブースごとの待機列が分かりにくい（22）

もっと他の検定もあればいい（5）

場所が分かりにくかった（5）

場所が狭い（3）

座席を増やして欲しい（3）

* 「並び方が分からない・割り込む人がいる」という意見が多くあったので、**待機列の対応を各団体に依頼し改善**してもらった。2日目にはほとんどこの意見はなくなっていた。

* もっと他の検定のブースがあれば良かったという意見があった。

* 他には、「大人もやってみたかった」「作り方をもらえたら家でもできた」

* 改善点ではないが、「子供の意欲を引き出す良い企画である」「ブーススタッフの対応が良かった」「年に何回かの開催を希望する」「来年も参加したい」というような意見もあった。

参加者アンケートのまとめ

今回、初めて参加者（大人）へのアンケートを実施したが、ほぼ全ての方にご協力していただけた。

回収したアンケートの「参加者の意見」を2時間おきにチェックしていたところ、初日の午前中に「ブースごとの待機列が分かりにくい」という意見が多くあったので、早急に各団体にも連絡をして改善してもらった結果、待機列が分かりやすくなり、2日目には同様の意見はほとんどなくなった。このように**リアルタイムに参加者の声や要望を反映できるような使い方は大変有効だった。**

「**検定試験がいろいろあることが分かって良かった**」という感想が多く、意外に検定試験について知っている人が少なく、検定試験の広報ができたことは有意義だった。さらに、他の検定団体の参加を望む声もあった。また、「今は受検するには年齢が低いが、実際に検定試験を受ける年代になったら思い出して欲しい」という保護者の意見もあり、早急な受検者の確保にはならなくても、**認知度を上げることは意味があったと思われる。**

だがしや楽校のシステムについては、保護者には好評だった。最初の目当てはエコマネーで交換できる駄菓子であっても、まじめに体験に取り組む子供たちが多かったことも昨年同様だった。また、子供が自分のやりたい体験を選んで自由に参加できる雰囲気、「**子供が楽しんでいる**」「**自由にのびのび参加している**」という感想につながったと思われる。「スタッフが親切だった」という意見も多くあり、**一体的な会場運営の雰囲気**も参加者にも伝わっていたようで、満足してもらえる内容となっていた。

6. まとめ

① このイベントに参加した検定団体のメリットについて

1) 検定試験の広報

ほとんどの団体が認知度アップにつながったと感じている。来場者アンケートでは来場する子供の年齢が12歳以下が97%で、そのうち15%近くは6歳以下で、受検者層の年齢とはかけはなれているものの、検定自体に興味を持ってもらえた実感できるものであった。多くの検定があることを知ったという感想も多く、すぐに受検につながるケースは少ないものの、興味を持ってもらい将来につながる手ごたえはあった。

2) 子供たちや保護者とのコミュニケーションの機会

平日頃はあまり出会う機会がない子供たちや保護者と直接話ができるメリットも大きかった。保護者が検定のことを知ってくれたり、興味を持ってくれたりするケースも多かった。「子供と一緒に楽しめた」というスタッフの意見もあり、スタッフに取っても良い機会となった。

3) 自分たちの使命の再確認

他の団体や来場者との交流を持つことで、検定事業者同士がその使命を再確認し、連帯感が育まれた。また、直接、子供たちの体験のサポートをすることで、関ったスタッフが自分たちの公的使命を再確認できるという利点もあった。

4) スタッフのモチベーションアップ

スタッフが、直接、子供たちや保護者と会話をし、子供の体験するサポートをすることで、昨年同様スタッフのモチベーションがあがったようである。今年は、前回は声をかけなかったスタッフにも当日のブースの手伝いに来てもらうような工夫をした団体もあり、今後も、少しでも多くの関係者が当日参加することで団体の中のメリットが増えることが期待される。

5) スタッフ同士の交流

参加した団体から駄菓子屋のお手伝いにスタッフを出していただいたことで、団体のスタッフ同士の交流が行われていた。今後は、より他団体との交流を促すような時間が持てるように、スタッフのシフトの中で多少フリーな時間を作るなどの工夫をしても良いと考える。

② このイベントに参加する検定団体の課題

1) スタッフの確保

一番大きな課題は昨年と同様、スタッフの確保だった。今年は、会場が広くなったからか、参加者の人数が増えたために、昨年以上に対応するスタッフが足りなかった。1日目のアンケートで待機列がよく分からないという意見が複数有り、急遽、待機列を作ってもらったが、そこの整理に人員を裂くことも厳しい状況であった。

6. まとめ

③ だがしや楽校のシステムについての感想

体験をすると駄菓子や駄玩具と交換できるエコマネーがもらえるというシステムは昨年初めて取り入れたが、今年も引率者からは好評であった。エコマネー欲しさに体験するような子供もいたが、多くの子供たちは熱心に体験に取り組んでいた。まじめに取り組む様子を見て、保護者がびっくりするようなこともあった。体験を実施したスタッフも子供たちの好奇心や真剣さに触れ感動し、また、子供たち一人ひとりの個性も感じる事ができたようである。

④ イベント全体の感想

同じ団体で2年目の開催ということ、全国検定振興機構が事務局として全体を統括していること、だがしや楽校のシステムで全体が動いているということから、会議室が一つのまとまった企画と感じられたようである。団体同士の交流も深まってきていること、駄菓子屋の手伝いにスタッフを出してもらったことも参加団体同士の仲間意識を醸成したものと考えられる。参加団体全員でこの企画を作り上げるという態度が、来場者から「会場全体の雰囲気良かった」という意見にも反映されていると思われる。

参加団体が事前の打ち合わせをして目的を確認していることも、全体としての雰囲気を良くしていたと考える。当日参加したすべての団体のスタッフが、体験する子供ときちんと向き合っており、一人ひとりのスタッフの熱意ややさしさ、丁寧な対応は参加者にも感じられていた。結果として、会議室内の雰囲気はとても暖かくゆったりとしたものになっていた。

⑤ 今後の展望

この2年の実績を踏まえ、このような合同でのイベントが民間検定事業者同士の関係性を深めること、受検者や保護者と直接スタッフが関れる機会を得ることでスタッフのモチベーションがあがることや検定試験の広報に大変有効であることが分かった。今後は、より多くの団体と協力をして、検定フェスティバルのようなイベントを企画することも必要だと思われる。

特定非営利活動法人

全国検定振興機構

〒105-0003 東京都港区西新橋1-20-10

TEL : 03-3539-3821

FAX : 03-3539-3822

Mail : info@zenken.or.jp